

ふれあい

No.8

編集発行

上越市立春日小学校

多様な体験が子どもの成長を促す

校長 星野 浩一

保護者の皆様には、日頃より、春日小の教育活動にご協力いただき感謝いたします。9月・10月は、新型コロナウイルスの第5波の影響で、行事の中止や延期を余儀なくされてしまいました。参観やPTC活動等、お子さんの様子を見ていただく機会を設けることができない状況に、心苦しさを感じております。

さて先月、文部科学省から、「青少年の体験活動に関する調査研究結果報告」が発表されました。これは、平成13年に生まれた子どもとその保護者を18年間追跡した大規模な調査です。結果の概要は下記の4点です。

- (1) 小学生の頃に体験活動（自然体験、社会体験、文化的体験）や読書、お手伝いを多くしていた子どもは、その後、高校生の時に自尊感情（自分に対して肯定的、自分に満足しているなど）や外向性（自分のことを活発だと思ふ）、精神的な回復力（新しいことに興味を持つ、自分の感情を調整する、将来に対して前向きなど）といった項目の得点が高くなる傾向が見られた。
- (2) 小学生の頃に異年齢（年上・年下）の人とよく遊んだり、自然の場所や空き地・路地などでよく遊んだりした経験のある高校生も上記と同様の傾向が見られた。
- (3) 経験した内容（体験活動や読書、遊び、お手伝い）によって影響が見られる意識や時期が異なることから、1つの経験だけでなく、多様な経験をすることが必要であるということも見えてきた。
- (4) 小学校の時に体験活動などをよくしていると、家庭の環境に関わらず、高校生の時に自尊感情や外向性、精神的な回復力といった項目の得点が高くなる傾向が見られた。

(出典 https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/mext_00738.html)

「体験活動は子どもの成長にとって重要だ」と感覚的にとらえていたことが分析で確かなになったことは意義深いです。また、「家庭の環境に関わらず」という点にも注目しました。

では、改めて「多様な体験を土台とした子どもの成長を支える環境づくり」をどう進めていけばいいのでしょうか。教育の担い手は、「家庭」「学校」「地域」の三者であると言われる。それぞれの取組の充実と連携と協働も欠かせません。感染症対策で活動に制限はあるものの、春日地域では、健康ウォーキング等のイベントで、地域の人々の交流場面が生まれています。家庭でも、お手伝いや読書習慣についてお子さんと一緒に見つめ直してみたいかがでしょうか？子どもを見守り、認め、励まし続ける、そんな春日地域であり続けたいと思います。学校でも、2学期後半の教育活動において、感染症対策に努めながら、子どもたちのためにできることを精一杯進めてまいります。

☆所在・帰宅時刻を確認しよう！・・・最近、上越警察署管内では、児童生徒の行方不明での捜索願が連続しているそうです。春日小でも帰宅が遅くなって心配されるケースが見られます。外出の際は、行先や帰宅時刻をお子さんとしっかりと確認するようお願いいたします。

すまいる学級

すまいる学級では、一人一人に合わせた内容を個別や小グループで学習しています。国語、算数だけでなく、社会性に関する内容も学習しています。今年度は、コミュニケーションの力や他者と協力する力がつくように、新型コロナウイルスの感染予防に努めながら、学期に一回お楽しみ会を開いています。学年に応じて役割を分担して行っています。また、すまいる畑では野菜を育てる活動をしています。1学期はきゅうり、トマト、ナスなどの夏野菜を、2学期は大根とかぶを育てています。「大きくなるかな」「早くとれないかな」と、収穫を楽しみにしながら世話をしています。

子どもたちの「できた」「分かった」「またやりたい」という気持ちを大事にしながら活動を進めていきます。

野菜作り



収穫するのを心待ちにしながら世話をしました。

かぶと大根がすくすく育っています。



司会やプログラム作り、遊びの進行など、各学級で仕事を分担し、楽しみました。

ジャンケンに負けたら新聞を小さくたたんでいく新聞乗りゲームです。



お楽しみ会

ときどき わくわく 楽しいクラブ活動

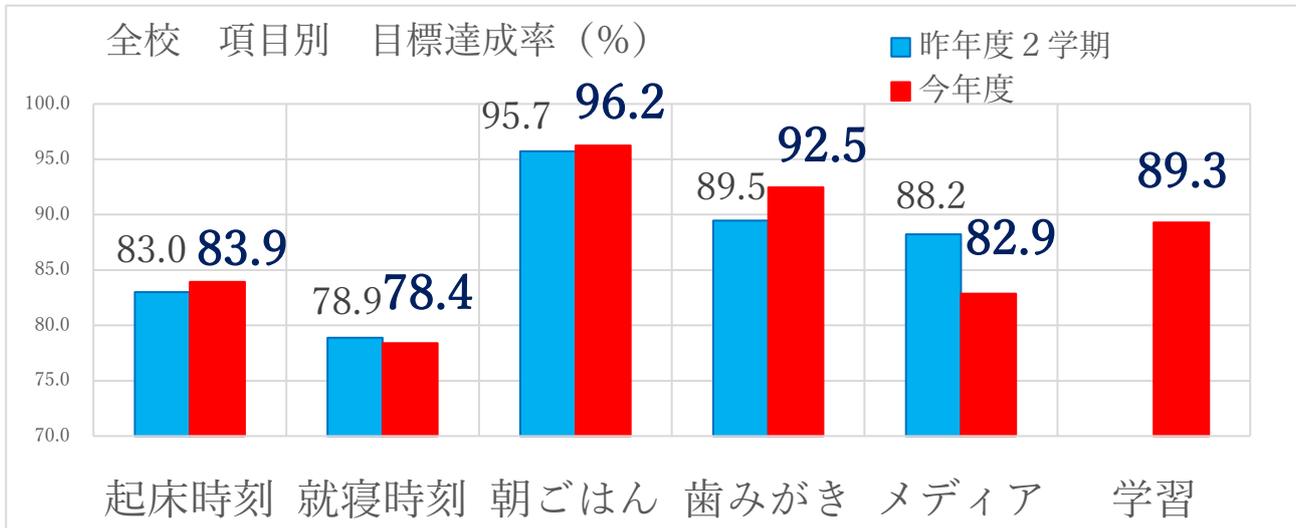
今年度も、10月から4年生以上の子どもたちが楽しみにしているクラブ活動を行っています。全部で4回のクラブ活動を実施します。どのクラブでも笑顔で意欲的に活動する子どもたちの姿が見られました。「生け花」「箏」「手芸」「卓球」「実験」クラブでは、地域の方や上越市にお住まいの方に講師として参加していただき、丁寧に指導をいただきました。ありがとうございました。



生活リズムハッピーウィーク～生活習慣改善週間～

8月30日（月）～9月3日（金）までの1週間、自分の生活習慣の把握・改善を図る「生活リズムハッピーウィーク」を全校で実施しました。

春日中学校区で定められた「起きる時刻」「寝る時刻」「メディア時間」などをもとに、自分で目標を立てて取り組みました。今年度から学習の項目も追加して取り組みました。以下のグラフは項目別目標達成率の昨年度と今年度の比較です。



参考 春日中学校区の目標:就寝時刻～低学年…21:00、中学年…21:30、高学年…22:00
メディア時間～2時間以内
学習時間～低学年…20分 中・高学年…学年×10分

- ・目標達成率について昨年度2学期と比較して見ると、朝ごはん・歯みがきについては上昇しました。ご家庭でのお声掛けのお陰で、全校の達成率は9割を超え、意欲的に取り組むことができていると感じました。
- ・目標達成率が80%を下回ったのは就寝時刻であり、全校の課題は就寝時刻であると言えます。夏休みの生活から学校生活への切り替えをスムーズにすることが難しかったと考えられます。
- ・メディアの達成率も昨年度と比べると大きく下降しています。メディアの使い方を学校やご家庭で改めて指導していくことが必要であると考えます。
- ・新しく追加された項目の学習時間については、概ね目標は達成されています。

持久走記録会を行いました！

10月7・8日に持久走記録会を行いました。当日までは、体育の時間だけでなく、休み時間にもグラウンドや体育館を自主的に走り、体力を高めようとする子が多く、意欲の高さを感じました。

当日は、これまでの練習の成果を発揮して、最後まで全力で走り抜く姿が見られました。また、たくさんの保護者の皆様、保護者・地域ボランティアの皆様から温かい声援を送っていただくとともに、安全を見守っていただきました。子どもたちの励みになりました。大変ありがとうございました。



いじめ見逃しゼロへむけての取組 はじまる

11月は、いじめ見逃しゼロ月間、

11月1日～12月3日は、人権強調月間です

いじめは、人権や命にかかわる重大な問題です。そこで、春日小学校では11月から12月にかけて、「いじめをしない」「いじめをさせない」「いじめを見逃がさない」を合言葉にし、子どもたちと共に考え、実行できる態度を育てようと、次のことに取り組みます。

- ①人権に関する授業の実施・・・11月1日（月）～12月3日（金）の間に、人権教育、同和教育の授業を実施します。日時や学習内容については学年便りをご覧ください。この機会にご家庭でもぜひ話題にしてください。
- ②教育相談の実施・・・子ども一人一人と担任が話す時間を確保します。
- ③学年でのソーシャルスキル教育の実施・・・「友達と声をかけ合い仲よくしよう」というめあてで、ソーシャルスキル教育を実施します。場面の教示や自分で言葉にして言う場面を設定し、温かいメッセージを理解し、実際の場面でも使えるようにしていきます。
- ④学級会・・・学級をよりよくするために話し合います。話し合ったものを放送委員会が全校に放送したり、掲示委員会が学級自慢を掲示したりします。
- ⑤いじめ見逃しゼロにかかわる標語・・・作成した標語を各学級で掲示します。学級の代表に選ばれた標語の中から、春日地域青少年育成会議より最優秀賞、優秀賞に選出されます。12月2日（木）春日中学校区いじめ見逃しゼロスクール集会内で表彰されます。
- ⑥ボランティアによるあいさつ運動を行います。
- ⑦生活向上委員会による放送での呼びかけ、いじめ見逃しゼロスクールの司会・進行を行います。
- ⑧運営委員会の計画・運営によるかけはし遊びを行います。

*今年度の「春日中学校区いじめ見逃しゼロスクール」は、12月2日（木）文化会館において、5・6年生が参加して行います。



帰宅時刻の変更について

夕暮れが早くなりました。子どもたちの安全確保のため、11月から3月までの間、16:30までに帰宅することとします。皆さんで声を掛け合い安全に過ごせるようにしましょう。